

2023 年度 中部学院大学短期大学部入学式 式 辞

桜の季節にふさわしく、このように晴れやかに厳かに第57回中部学院大学短期大学部の入学式を挙げるにあたり、先ずもって、ご臨席を賜りました関市長尾関健治様をはじめ、ご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心から歓迎致します。

吹奏楽部が先ほど演奏致しました「ニュルンベルグのマイスタージンガー」は、人間と芸術の素晴らしさを伝えている曲です。中部学院大学短期大学部は開学当初から讃美歌とハンドベルによる「祈り」と「音楽」に包まれておりましたが、より一層音楽が溢れる入学式で皆様をお迎えしたく、名古屋のプロのオーケストラの演奏を加えた時期がございました。それをきっかけに奮起した短期大学と大学合同の吹奏楽部が質を上げ、入学する皆さんに心を込めて歓迎演奏を披露してくれるようになりました。コロナも下火になり今年は再び、このように華やかに音楽溢れる本学らしい入学式を挙げることを嬉しく思います。後ほど演奏する「祝典序曲」は岐阜済美学院 100 周年の時に、この会場で演奏した記念すべき曲です。

これから始まる皆様の大学生活を祝しての演奏を楽しみ、明日からの力にしてください。

さて、新入生の皆さんに何よりも申し上げたいことは、「私たちは、この世で果たすべき役割が与えられて、この世に生まれてきている」ということです。そのための資質を与えられて生まれてきているのです。短期大学部の2年間は、多くの知識と技術の習得が求められます。しかし大切なことは、与えられた知識を習得するだけの受け身の学びではなく、自分自身の中から生み出す、創造的な学びです。それを心がけてください。そのためには様々な体験をすること、摩擦を恐れず多くの人の中で揉まれること、異文化など異なるものに身をおいてみることを、学生時代だからこそできること、に果敢にチャレンジしてください。

人間社会には自分の尺度では測れないことが色々あります。その時、冷静に「何故?」「どうして?」と問いながら時が熟すのを待つ必要があります。謙虚に問い続けていると必ず光が見えてきます。このことは本学の建学の精神「神を畏れることは知識のはじめである」が語っている通りです。本学の建学の精神は「人間としての真の賢さは謙虚に自分を低くして、心を高く上げて大きな存在に気づき敬うことから始まる」と言っています。「しなやかに対応できる自分、謙虚に希望を持って生きる自分」を育ててください。

本学は、「生きる、を学ぶ」をスクールモットーとしております。自分らしく生きる、子どもと生きる、障がい者と生きる、高齢者と生きる、日本人と共に生きる、さまざまな「生きることへの探求」は必ず皆さんを大きく育ててくれます。この世での役割を果たす人間に育ててくれます。

結びに「笑顔と挨拶、声掛け」をトレードマークとしている本学での明日からの学びが輝いたものになりますように、神様の祝福が入学生お一人お一人の上に、ここに連なる全ての人の上に、豊かに注がれますことを願って式辞と致します。

2023年4月2日
中部学院大学短期大学部
学長 片桐 史恵